



19940908
 総14号
 発行
 桂坂
 自治連合会
 広報編集部

ご用心
 あちこちで空き巣に
 忍び込まれる事件が起
 きています。
 外出時にはきちんと
 家の戸締まりを。
 また、不審な人間・
 車を見かけた時は、隣
 近所、声をかけ合うと
 ともに、警察にも連絡
 してください。

九月一日(土)、午後三時
 より、樫原廃寺跡史跡公園にお
 いて、「名月観賞の夕べ」が開
 催されます。
 この催しは、仲秋のひととき
 区民の皆さんが名月を觀賞し、
 文化を通じて交流し、親睦の輪
 をひろげていただくためのもの
 です。

出演される時間は、午後三時
 ごろの予定です。皆さんの多数
 の応援をお願いいたします。
 会場には、模擬店も設置され
 ます。
 会場付近には、駐車場があり
 ません。自動車ではいらつしやる
 のはご遠慮ください。
 市バスは、阪急・桂駅行きの
 「西5」「西6」、京都交通な
 らば桂駅東口経由のバスに乗っ
 て、いずれも停留所「三の宮街
 道」で下車し、南の方へ徒歩で
 五分ぐらいのところ、会場の
 「樫原廃寺跡史跡公園」があり
 ます。

第4回 区民体育祭

10月2日(日) / 雨天9日 9時開始

桂坂体育振興会では、桂坂自治
 連合会をはじめ、各種団体、桂坂
 小学校、大枝中学校、およびこの
 体育祭の趣旨をご理解いただき、
 ご協賛を賜った多くの方々の暖か
 いご支援を得て、下記の通り、
 「第四回区民体育祭」を開催いた
 します。

この体育祭は、老若男女を問わ
 ず、学区民の皆様が一登に集い、
 一日を楽しく、明るく過ごすこと
 によって学区民全体の親睦とコミ
 ュニケーションの輪を拡げる、そ
 の、お役に立てばと願って開催す
 るものです。

どうか、仲秋の一日を存分にお
 楽しみいただき、明日への活力と
 していただくとともに、相互信頼
 に基づく連帯の絆を深めていただ
 きたいと思っております。

当日は、多彩なプログラムや景
 品、賞品を用意してお待ちしてお
 ります。是非ご家族お揃いで、多
 数、ご参加ください。

桂坂・体育振興会

消防学校に

貴重な体験入学

自主防災会リーダー研修

九月四日の日曜日、自主
 防災会のリーダーの皆さん
 が伏見の消防学校に、半日
 の体験入学をしました。

総勢四十六名が、この桂
 坂を午前八時にバスで出発、
 九時より研修と訓練に参加
 したのですが、この貴重な
 体験は、今後の桂坂・自主
 防災会の諸活動に大いに役
 立てることができると
 思っています。

■「暗室の迷路」

ビル内、あるいは地下街
 において火災が発生したら
 黒煙が避難する私たちの行
 く手をさえぎって、それこ
 そ文字通り、暗中に模索せ
 ざるをえない羽目に陥りま
 す。

こうした、普段ありうる
 事態を想定した「暗室の迷
 路」を歩く訓練を五班にわ
 かれて体験しました。

避難通路を全く知らない
 場合、案内図などを見て予
 め経路を知っていた場合、
 少ない光源の灯りでも携え
 て避難する場合など、

参加者が「迷路」を実際に
 たどってみた際の所要時間
 など歴然とした結果の比較
 ですから、例えば不案内な
 旅館やホテルに投宿した際
 に、面倒でも避難通路や非
 常口・非常階段を「確認」
 しておくことがいかに大切
 か、また、携帯用の懐中電
 灯でもカバンの中に入れて
 旅行することがどれだけ心
 強いかな、を思い知らされる
 ことになりました。

■避難訓練

この訓練としては、ビル
 など高い建築物に設置され
 ている斜降式救助袋の設置
 の仕方とその救助袋を使っ
 て降り、避難する訓練。実
 際に長い袋の中を滑り降り
 るのですから、いささかの
 不安もありましたし、中に
 は袋との摩擦で腕をすりむ
 いた人もありました。

また、これは、例の天ぷ
 ら鍋から火の出たことを想
 定した実験。三六〇度まで
 熱せられた天ぷら油が発火
 する状態の観察と消火訓練
 です。油火災の類焼を防ぐ
 心得をも同時に伝授されま
 したが、一番大切なのは、
 揚げ物をしている時には、
 その場を離れないこと。こ
 の「ウツカリ」がとりかえ
 しのつかない事態を招くこ
 とになるのですから。

■燃焼実験—油の恐さ

この桂坂は、私たち自身
 の手で守っていかねばなり
 ません。
 来る 十一月三日(日)
 には、この桂坂学区におい
 て「自主防災」の訓練を実
 施する予定であります。
 皆様のご参加・ご協力を
 切望いたします。



火災に気をつけましょう

このところ炎天続きで
 日の体感入学を終えた面々
 は、思いがけない、しかし
 楽しくもあつた実地体験に
 たちの街を火災から守りま
 しょう。

一年の任期の半ばを過
 ぎて自治会がどんな活動
 をする組織か、自治連合
 会があつてどんなことを
 しているか、市の行政と

自治会紹介

ひいらぎ自治会

「ひいらぎ自治会」は
 桂坂のほぼ中央に位置す
 る約二〇〇世帯で構成さ
 れています。
 つい先日、最大の年中
 行事である「夏祭り」
 をともかくも終える
 ことができ、役員、
 班長一同ほっとして
 います。
 でも、子供たちが
 あんなに多く集まっ
 てくれるのなら、もっ
 と子供の喜ぶイベン
 トを考えると、ところだ
 ったのにと、少々残
 念に思いました。ま
 た、西瓜の価格暴騰
 で西瓜割りの予定を
 急遽変更せざるを得
 なかつたのも、子供
 たちのために残念で
 した。
 恵まれた自然環境
 と目にも鮮やかな四
 季の変化に惹かれて
 住む桂坂の私たちの
 人的環境も住み心地
 のよいものにするため
 に、ささやかでもお役に立
 たらと思ひます。
 岸 本 新兵衛

「すべての人々に

人間の尊厳を」
 この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。
 この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。

御礼

日赤奉仕団桂坂分団
 分団長 田畑 昭三

この資金は、広く
 国際活動・災害救護・医療
 事業・看護婦の養成・血液
 事業など社会福祉増進のた
 めに活用されます。

この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。

この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。

この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。

この趣旨をご理解いた
 だすために活用されます。
 めに活用されます。

女子ソフトボール 混合チームに凱歌

主催 「体振」

九月四日、日曜日、桂坂小学校グラウンドにおいて、桂坂女子ソフトボール大会が開催されました。

真夏日を思わせる炎天のもと、各自治会より参加された皆さんの、若わかししいハッスルプレーが見られました。

はなみずき、ぼぶら、しらかばの三自治会は単独チームでしたが、その他は混合です。その混合チームも即席の編成とは思えぬ活躍ぶりでした。

決勝戦は、しらかば自治会と、つばき・さつき・かえでの混合チームとの間で争われ、十二対四で、混合チームが見事、優勝しました。

新しい趣向あり

見事に花開いた

94

夏まつり

ドンドン、ドトドド 力強 毎年、役員・班長、その他多く太鼓の音。どこか、幼い日に聞いたような懐かしさを思い出させています。

例年、子供の遊びとカレー・焼きそば・おでんなどの模擬店を中心におこなって来た「かえで」の夏祭り、飲んで、食べて、しゃべって、それはそれで楽しいのですが、今年は何かのイベントをと考え、中京のアマチュア太鼓のグループ『よかろう太鼓』の皆さんに来ていただきました。

夏祭りは、一年間の自治会活動の中でも最も大きな行事です。今年は何かのイベントをと考え、中京のアマチュア太鼓のグループ『よかろう太鼓』の皆さんに来ていただきました。

かえで自治会

山田 まゆみ



東海自然歩道

中の村といった風情の漂うせいで空洞でもあるのか、足踏みをするや靴底の音が

前回、沓掛から金蔵寺まで歩き、東海自然歩道の紹介を終えるつもりでしたが、ポンポン山という名にひかれ、七月半ば、家人を誘って金蔵寺からポンポン山へコースを辿ってみました。

金蔵寺からかなりの山道を汗びっしょりになりながら、歩くと一時間余りです。一人旅と違った今回は、休日のせいか、何組ものグループに出会い、どちらからともなく「こんにちわ」の挨拶。杉谷はいかにも山

の挨拶。杉谷はいかにも山... 腹鼓を想像していたのですが、実は、この山の地層の



ぶつづけ本番、待ったなし、の夏祭りに向かって高まってきた期待。不安・緊張も、子供たちの喜々とした顔を見、また、親と子の、おぼあちゃんとお孫さんたちの、楽しい団らん風景に接して、フィナーレで次々に打上げられた花火のように、見事に花開き、パツと消え散りました。そしてこれこそ夏祭りだと実感しました。

顧みれば、数ヶ月にわたり企画と準備を重ね、全役員・組長・班長がそれぞれ得意分野を担当し、また、各会員の皆様からの多大の資金援助を得て、無事開催できたことを感謝しています。

年に一度、わずかな日に行事ではあります。が、子供らにとっては、幾歳月経っても、良き、楽しき思い出として深く刻まれていくことと確信し、かつ希つてもいます。また、回を重ねる毎に、内容も一段と充実して各会員間の親睦も併せて深まるものと期待しています。

つばき自治会

若林 貢



ふれあい広場の芸術作品 四つ

今回は、ふれあいの里の広場にある、いくつかの芸術作品を紹介しましょう。

朝の九時に、4拍子長3度交互打ちで7回、その後一二時には「憩い」、午後三時は「幸福の鐘」、六時には「家路」の、それぞれメロディが、時を報らせる仕掛けになっています。

この聞きなれない「カリオン」とは、一定数以上のベルが組合わせられ、しかもメロディが鳴るものをいい、メロディもなく、ベルの少ないものがチャイムだそう。

制作者は、鍛造家の仲三郎さん。ガス灯をしのばせる柱の頂きにしつらえられた「カリオン」は、粘土で型をとり、銅板を叩きだしたりしてつくられています。が、彼方の空に向かって飛びたとうする雉と六個の鐘とで構成されています。

この土地に棲息し「風」を羽一杯に受けて翔ぶキジを造形して、「ふれあい」の意をこめたもの。「風や鐘の音」はいつも「人々の暮らしのそば」にあつて、「心安らかなひととき」を演出してくれそうです。「殺伐とした現代空間や暮らし」

の中で、「人間性豊かな生活」を再びとりもどす、そういった願いのもとに制作されたものようです。

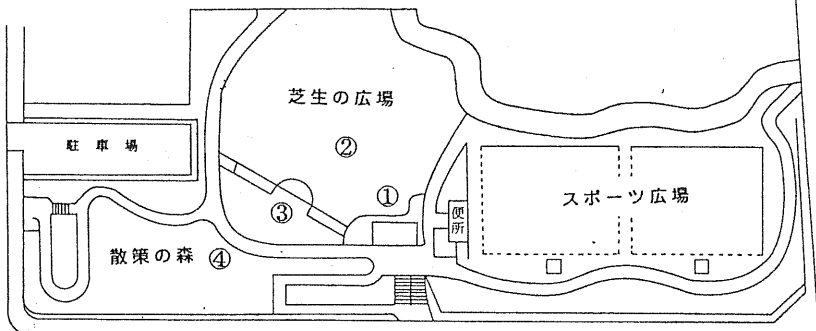
制作は同じ仲三郎さん。ふれあい広場のステージの後壁に、「人に安らぎをもたらす」をテーマに、洛西の山並み・雲・雷・雨・太陽などをバックに「女性たちが楽しそうに楽器を奏でる」さまを表現したもので、題は「人々の響き」。

彫刻家・川那守さんの制作。これは、「二つの御影石がふれあつて、そこから泡が吹き出している」状態を表現した彫像です。

表面が「なめらかな曲線で仕上げ」られた「石のふれあい」を意味するこのオブジェは、「くつろぎのスペース」としてベンチにも使用できるとの意図で作られています。

時を知らせ、また視覚・触覚を通して楽しめる、この四つの芸術作品は、いづれも「ふれあい」のテーマに係わるもので、広場を散策する私たちに親しみやすい、ふつと「夢や遊びのある暮らし」を想い描かせ、今と昔を考えさせてくれる格好の造形です。

バス通りを突き当たったすぐの石段をのぼると、そこが「ふれあい広場」です。



② 列柱

ステージをとり囲むように、「芝生の広場」、即ち「自然の恵み、自然の懐に抱かれた、洛西ふれあいの

里の中心地」に配された柱の列です。「大きい人、小さい人が手をつないで楽しそうにぐるぐる回る輪」を表し、真中のステンレス球の下に立つと「広場全体が写し出される」よう「鏡面仕上げ」になっています。まるで宇宙から「ふれあい広場」見下ろしているかのような錯覚にとらわれ、童心にかえって楽しめそうです。